

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念に基づいた事業所の理念、目標を掲げ、それに沿ったケアの提供、実践ができるよう努めている。	法人理念に基づいた事業所独自の理念があり、玄関や事務所に掲示されている。また理念に沿った年間目標を毎年職員全員で作成しており、年度の反省を行い話し合いながら目標を決めていく過程で、理念の理解や共有が深まり、実践へと繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で交流は少なくなっているが、野菜や花の寄付などを頂く機会があり地域の理解協力のもと交流ができています。	コロナ禍により地域との交流も難しい状況にあるが、近隣の方との間では、畑で取れた野菜や花の寄付をして頂いたり、近所の保育園児の散歩の休憩場所になっている等の交流がある。保育園へは、グループホームで作った雑巾を贈呈する計画もある。	コロナ禍で地域との交流も難しい状況だが、現状でも可能な方法を模索して地域との交流が進まれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所内での認知症についての学習の機会は設けているが地域の方へ向けて発信はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で運営推進会議の実施はできず。書面にて事業所の運営状況、取り組みの報告を行っている。	コロナ禍のため開催できないが、以前は2か月に1回、市職員や地区の区長、民生委員、系列の病院関係者等が参加して行われていた。現在は、運営や取り組み状況等を書面にまとめ、配布し報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍のため運営推進会議の実施はなく事業所の取り組み、運営状況は書面にて報告を行い、運営改善に努めている。骨折事故などの報告を実施している。	上記の通り、運営推進会議がコロナ禍で開催されていないため、市関係者等と直接顔を合わせて話し合う機会は少なくなっているが、2ヶ月に1回報告書を提出する際は、市役所を訪問し直接提出するよう心掛け、必要に応じてスムーズに連携が図れるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事故が起きた要因、本人の思いを探り職員間で共有し、カンファレンス等を行い安全に配慮したうえで身体拘束をしないケアに努めている。	現状、身体拘束は行われていない。事故やケガのリスクがある場合は、午後の休憩明けに行われる15分程度のミニカンファレンスで日常的に話し合いが行われ、原因や対策等が協議され身体拘束をしないケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の学習会に参加した職員より事業所内会議で伝達学習を行った。虐待への理解を深め、職員個々が虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している入居者はいはるが十分に理解を深めることはできていない。今後研修会への参加、学習の機会を持ち理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所契約書、その他(重要事項説明書等)の説明をし契約の締結を実施している。項目毎に質問、不明点が無いか確認し理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、要望は投書箱を設置し記入できる環境を作っている。また、面会時等に聞き取りを行い、運営に反映できるよう努めている。	コロナ禍により、運営推進会議や家族会が開催できず、面会も制限されている為、家族の意見や希望を直接伺える機会が減少している。その中で職員は、不足品のお願い等で家族に電話する際などに確認できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度の事業所会議にて法人、事業所の運営状況の報告を実施、職員から意見、要望を聞く機会を設けている。日頃より気軽に意見を言える環境作りを行い運営に反映できるよう努めている。	日頃より管理者は、職員が気軽に意見を言える環境作りに努めている。月に1回、事業所内で開かれる会議は、なるべく全職員が出席できるように配慮されており、そこで出された職員の意見等は、月2回開かれる法人の代表者会議でも話し合われるなど、職員の声が反映される仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	利用者一人一人に担当職員を配置し、やりがい、役割を持って働ける環境作りに努めている。職員個々の労働条件、希望に沿った働き方ができるよう勤務調整を行い、職員の体調管理に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍で外部研修に参加する機会は少なかったが、事業所内の学習会を定期的に行いチームケアに活かすような取り組みが行えた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内の事業所との交流の機会は設けることができなかった。今後外部研修等に積極的に参加することで他事業所との交流を図りたい。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス導入時、御家族からの情報を元に聞き取りを行っているが充分ではない。職員個々で得た情報はカルテへ記載、共有し関係づくりにつなげられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初回サービス導入時、御家族より不安な事等を聞き取り、サービス・ケアを実施していく中で都度報告、相談し不安の軽減、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	都度カンファレンスを実施しケアについて評価を行い職員間で情報交換、ケアの方向性を確認し、御家族へ理解を得たうえで実践できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の関わりの中で利用者のしたいこと、やりたいことに目を向けてケアを実践している。一人一人に寄り添いその人らしさを大切に生活を共にするという意識を持って関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で面会の機会が少なかったため、物品依頼時、ふきぼこ通信にて日々の様子をお伝えしている。職員だけでなく御家族と一緒にご本人の生活を支えていけるよう情報共有、協力依頼を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が持っている写真を見て、御家族のお話をしたり馴染みの人、場所とのつながりを感じるができるように努めている。	コロナ禍により、外出や受け入れに制限がかかっているため思うように支援ができていないが、居室に飾っている家族写真やアルバム等を用いて、本人にご家族の話をお聞きするなど出来る範囲で関係継続の取り組みをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間の関係性に配慮し場合により職員が間に入り、席替えの検討、利用者同士の円滑なコミュニケーションが行われるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院等した場合、介護サマリー等で情報共有を行い退院、退所後の生活に変化のないように支援を行っている。ふきぼこでの生活が困難な場合、転院、転所の相談を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当中心で御本人に希望や意向等の聞き取りを行い、カンファレンスにてケアプランに反映することでケアの統一に努めている。聞き取りが困難な場合は御家族から聞き取った生活歴を元に、本人本位にケアが行われるよう努めている。	担当の職員が中心となり、利用者との日々の関わりの中で、表情やしぐさ、様子等から思いや意向の把握に努めている。またご家族から伺った本人の生活歴を参考にしながら、出来るだけ本人本位のケアが提供できるように努力されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族からの情報(面会、家族会時に聞き取り)や、ご本人の言動から馴染みの暮らしを提供できるように努めている。入所時ご家族に生活歴の聞きとりを実施し、ご本人の不安軽減につながるケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	些細な言動も記録に残し、その時の変化に気付き情報を共有し、現状にあったケアが提供できるよう随時ケアの見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当中心にモニタリングを行い介護計画を立案している。本人にとってその時に必要なケアが行えるように随時見直しをし、自立を助ける支援を行っている。	本人、家族から生活に対する意向を確認し、介護、掛かりつけ医、訪問看護等がチームとなり支援している。3ヶ月に1回のカンファレンス以外に、必要に応じてミニカンファレンスが随時フロアで開催されており、現状に即した支援がタイムリーに展開できるよう取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を記録から読み取れるようアセスメントを積極的に記入し、経過観察と評価を行うことで介護計画の見直し、つながりを持ったケアが実現できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の体調や希望に沿ってサービスが提供できるよう配慮している。その時その時で利用者一人一人に適切なケアが行えるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍のため地域、病院のお祭りなどの機会はなかったが、病院の桜を見てお花見を行うことができた。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隣接の病院から月2回の往診を受けている。ご本人の体調変化を報告し体調管理に努めている。排便、痛み等による苦痛、不快が軽減できるよう内服薬の調整が適切に行えている。	隣接する系列の病院が協力医となっており、月2回の往診がある。また隣接する系列の訪問看護も週1回訪問し、利用者の健康状態を把握。協力医と連携を図りながら利用者の体調管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1度の訪問看護で、日々の体調面での変化を報告し、適切な支援が行えている。緊急時には訪問看護へ報告、指示を仰ぎ対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーを活用し情報提供を行っている。隣接病院へ入院の際は医師、他職種と連携をとり、情報交換に努め早期退院に向け調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時、御家族と緊急時の意向確認、同意書の作成を行っている。状態変化、終末期への移行時は医師によるICの実施、予後について説明を受けご家族の要望、意向を確認している。事業所で支援できることについて職員間で共有しケアに反映できている。	入所契約の時点から重度化や終末期に関する説明が行われ、ご家族の意向等を確認し同意書が作成されている。同意書は、状態等の変化に応じて見直されている。直近1年間では3名の方の看取りケアを実施。亡くなられた後も看取りケアの振り返りが行われ、出来たこと、出来なかったこと等が職員間で共有され、看取りケアの質が向上できるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルは作成しているが訓練は実施できていない。個々に起きたケースで訪問看護との振り返りを行い、次に起きた際に適切な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	隣接の特別養護老人ホームとの緊急時の協力、連携の確認を行っている。今年度避難、消防訓練の実施は行っていない。年度内に訓練を予定している。地域との協力体制については今後も検討の必要がある。	緊急時、隣接する特別養護老人ホームと協力、連携する体制がある。今年度は、消防署による設備点検は行われたが、避難訓練はこれから年度内中に行われる予定である。法人内の労働安全委員会により緊急連絡網、災害時持ち出し袋の確認が実施された。	コロナの影響もあり進展が難しかった地域との協力体制について、具体的に進まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人一人が人格の尊重、プライバシーに配慮した関わりが行っている。他利用者からの視線、倫理的配慮をしケアにあたる事ができた。	管理者が中心となり、日々の介護の中での言葉掛けや対応等について、プライバシーに配慮し取り組まれている。例として、排泄支援時の言葉掛け、トイレ扉の開閉、パット類を車椅子のポケット等、他者から見える位置に置かないなど。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	担当中心に一对一での関わりが持てる時間を設けたり、ご本人の希望に沿って柔軟に対応ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務内容の見直しを行い、職員の都合や業務の流れに利用者の生活を当てはめるのではなく、体調や希望に沿った支援を行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	馴染みの服の選択や髪染め、希望した髪の長さでの散髪等、利用者の好み、希望に沿った身だしなみを実践できている。御家族にも協力を得て美容室へ行く機会を持った。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理、盛り付け、下膳、片づけ等利用者個々の有する力を活かし、食事が楽しみなものとなるよう努めている。季節感を大切に食事作り、提供ができるよう努めている。(おせち料理作り、野沢菜漬等)	食事は、すべてフロアにあるキッチンで職員が調理している。利用者は、簡単な調理や盛り付け、配膳等の準備、下膳等の作業を職員と一緒にやっている。季節感を感じたり、これまでの習慣を大事にするために、干し柿作り、野沢菜漬、おせち料理等を一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や咀嚼、嚥下機能等、個々に適した食事形態で提供ができるよう努めている。栄養管理体制加算取得に伴い適切な栄養バランス、体重管理などの指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	できる限りご本人で行えるよう支援しながら義歯の状態、口腔内を観察している。定期的な歯科往診を受け口腔内の状態維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄リズムを把握できるよう努めている。現状に適した排泄ケア用品の選択を行い自立を支援したケアを心掛けている。排尿、排便に関して不快が軽減できるよう、訴えの少ない利用者に対しては言動からサインを見逃さず支援できるよう努めている。	排泄チェック表の記録を用いたり、ミニカンファレンスで適宜打ち合わせを行うことで、一人ひとりの排泄リズムを把握し、失禁せず出来るだけトイレで排泄できるように支援されている。それによりパットの使用量を減らしたり、吸収量の少ない安価なパットに切り替えたり等、利用者家族の経済的な負担軽減にも繋がるように、意識して取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	不快なく自然な形で排便ができるよう意識し、Dr、NSと連携し適宜内服薬の調整、検討を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	無理強いせず、ご本人の希望や体調、気分を優先し支援している。同性介助の実施、身体状況に応じ2人対応で行うなど安全面での配慮も行っている。	一人ひとり、おおよその入浴日は決めているが無理強いせず、本人の体調や気分に合わせて臨機応変に対応されている。ゆっくり入浴して頂くため、1日3名を限度に入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	無理な離床や臥床はせず、一人一人にあったタイミングで休息、睡眠時間の確保を行っている。その方にあった就寝環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	協力体制のある薬局の薬剤師より助言、指導を受けながら用法、用量を理解し服薬支援を行っている。不明な点は質問、確認したうえでの服薬管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	気候のよい季節は外へ散歩に出かけたり、ウッドデッキにて外気浴を行い気分転換を実践している。一人一人の生活歴を活かした役割、楽しみの実践は不十分である。穏やかに過ごすことに努めケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ごみ捨て、散歩等天候に応じて日常的に屋外へ出かけられる機会を設けている。季節のレクリエーションにて花見を行った。	感染症対策により外出先に制限があるため、一人ひとりの行きたいところに行くことは難しいが、天気の良い日は施設の周囲を散歩したり、隣接する施設へゴミを出しに行くなど、日常的に外出する機会を設けている。隣接する病院の駐車場では桜が奇麗なため、お花見をすることも出来た。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失トラブルを無くすため日常的に利用者にお金を持って頂くことはしていない。ご本人の希望があれば金銭を持ってもらっている。御家族と書面にて金額を確認しサインを頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人から御家族へ持参してほしいものがある場合職員が代行して依頼している。ご本人の希望が実現できるよう職員、家族間で情報の共有を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を意識した工作、飾りつけを職員、利用者で実施し生活感、季節感を意識した空間づくりに努めている。日差しがまぶしいという利用者に対し共用空間にロールスクリーンを設置するなど居心地のよい空間作りに努めている。	施設の中央に大きなサンルームがあり、採光が良く施設内が大変明るい。サンルームは洗濯物を干す場所にもなっており、利用者も手軽かつ安全に、洗濯物を干すことが出来る。利用者が主に過ごす食堂フロアは、大きな窓から庭園風の庭が一望でき、樹木が奇麗に手入れされているなど素敵な眺望が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室での読書やソファでの談笑、TV鑑賞、廊下端より外を眺めたりと、個々の居場所や時間の使い方ができるよう配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地がよい環境や、入居前に過ごされていた環境に近づけるように配慮を行っている。馴染みの物を使用したり(自家製の手鏡、手芸品)、御家族との写真を飾ったりすることで不安なく過ごすことができる居室環境作りを行っている。	居室は、基本的なスタンスとして、特に持ち込みの制限はないため、スペースに問題がなければ自宅で使っていたタンス等を置くことも出来る。思い出の品や家族の写真を飾っている方が多く、感染症対策で面会が十分に行えない代わりに、職員は家族写真を話の種にして、本人にご家族の話を伺うなどしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	分かること、出来ることに視点を向け、安全で安心できる生活環境を提供、実践している。居室、便所、浴室等がわかりやすいように表記している。		